

非農地化後の課題

農地が適正に管理されなくなり、結果的に非農地化した場合、当該土地よりも周辺の農地等に影響を及ぼすことが懸念されます。

鳥獣被害の拡大

中山間地域では、山際の農地が緩衝地帯として、人間生活圏への動物の侵入を防ぐ効果があると考えられています。

動物による食害等により耕作放棄が進み非農地化したケースもあると思われますが、非農地化することで動物の活動範囲を広げ、さらに近隣の農地への食害を招く恐れがあります。

また、集落と動物のテリトリーの物理的距離が近くなることで、集落へ熊が侵入するなど人的被害の発生も懸念されるところです。

病虫害の発生

手を入れなくなった土地は、雑草や木々が繁茂し、それにより病虫害が発生する危険性が高まります。当然、病虫害は当該土地に留まらず、周辺農地等へ影響し、その結果さらに周辺農地の耕作放棄が進む恐れもあります。

非農地化後の課題

農地が適正に管理されなくなり、結果的に非農地化した場合、当該土地よりも周辺の農地等に影響を及ぼすことが懸念されます。

不法投棄

ゴミなどの不法投棄は、もちろん不法行為ですので、木々や雑草が繁茂し周囲の目につかない土地が狙われます。

非農地化した農地は絶好の狙い目になる恐れがあります。

多面的機能への影響

農地は、洪水を防ぐほか、地下水への貯水、川の流れの安定など、水資源の涵養という機能を持っています。

また、様々な生き物の生息地として自然環境を保護するほか、農村の景観の保持、農村文化の継承、癒しや安らぎの提供、体験学習や教育への利用、暑さを和らげる機能など、様々な機能（これを多面的機能といいます。）を持っています。

農地を非農地化することで、自然界との均衡にずれを生じさせ、結果的に多面的機能の減少や喪失などの悪影響を及ぼす可能性があります。

非農地化後の課題

農地が適正に管理されなくなり、結果的に非農地化した場合、当該土地よりも周辺の農地等に影響を及ぼすことが懸念されます。

日照障害

農地に木々が生い茂った場合、隣接する農地や宅地等に対し日照障害を引き起こす可能性があります。

特に比較的非農地となりやすい山間部においては、元々日照時間が短いことからその影響は顕著となるでしょう。

水系への影響

非農地化が進行した農地が田んぼである場合、下流に位置する田へ直接影響を与えます。

また、水路そのものの維持管理が十分に行われなく可能性もあります。